

紫波の子育てを支援する会「あれんと」を基軸とした 発達障がい児とその家族に対する 多職種協働支援の現状と今後の展開

令和元年度地域課題解決プログラム

本宮綾華（教育学部）

指導教員：佐々木全（岩手大学教育学部 准教授）

課題申請者：細川恵子 阿部圭子（紫波の子育てを支援する会）

1.問題の所在

近年の子育て相談や障がいに関する相談の傾向として、支援困難なケースが顕著に増えているといわれる。その背景には、対象児の特性と共に、保護者の養育能力の問題、家庭の貧困の問題、保護者の疾病や特性、社会生活・環境の変化等々、様々な要因が複合的に絡み合い生じていることがあげられる。このように支援困難ケースの要因が多岐にわたっている場合、一つの支援機関での対応には限界があり、具体的対応方法として多職種協働の必要性を述べている。

この必要性に応えるべく、市民団体『紫波の子育てを支援する会「あれんと」』では、多職種協働の相談事業を実施している。有志スタッフは、医療関係者（医師、理学療法士、ケースワーカーほか）、教育関係者（教師、保育士他）、保健関係者（保健師他）、福祉関係者（事業所の職員、相談支援専門員他）等である。相談支援の導入として開催している「子育て相談会」では、各職種にある相談対応者が、来談者に必要な資源を紹介することを運営方針としている。

このシステムは適切な見立てや早期支援にもつながる効果的な方法と考えられる。

2. 目的と方法

【目的】

「あれんと」における事業の成果と課題、並びにモデルとしての汎用可能性を明らかにすることを目的とする

そのために

【方法】

- (1) 「あれんと」における運営実態調査（運営者に対する聴取）。
 - (2) 「子育て相談会」における満足度調査（来談者に対する質問紙調査）。
- なお、「あれんと」の事業への参与観察（学生3名と研究者1名が参与）を行い、これをもって（1）（2）の結果を踏まえて考察する。

3. 結果

(1) 「あれんと」における運営実態調査（運営者に対する聴取）

【活動実績：前年度】 佐々木（2012）の観点による運営実態調査

事業名	回数／年	内容	参加者、会場等
定例会	12回	運営に関するミーティング	スタッフ8～9名 @地域相談しんせい、みちのく療育園
子育て相談会	4回	相談対応（保護者支援）	スタッフ10名、来談者85名 @虹の保育園
ペアレントトレーニング	4グループに対して8回	ペアレントトレーニングの実施（保護者支援）	スタッフ4名、参加者20名 @NPO法人紫波サプリ
みすず広場	24回	相談対応（保護者支援）	スタッフ2名、参加者240名 @紫波町社会福祉協議会
ネットワーク会議	4回	関係機関との情報交換	スタッフ8名、参加者120名 @オガール、保健センター
出版	1回	子育ての啓発リーフレットの作成と配布	500部発行

3. 結果

(1) 「あれんと」における運営実態調査（運営者に対する聴取）

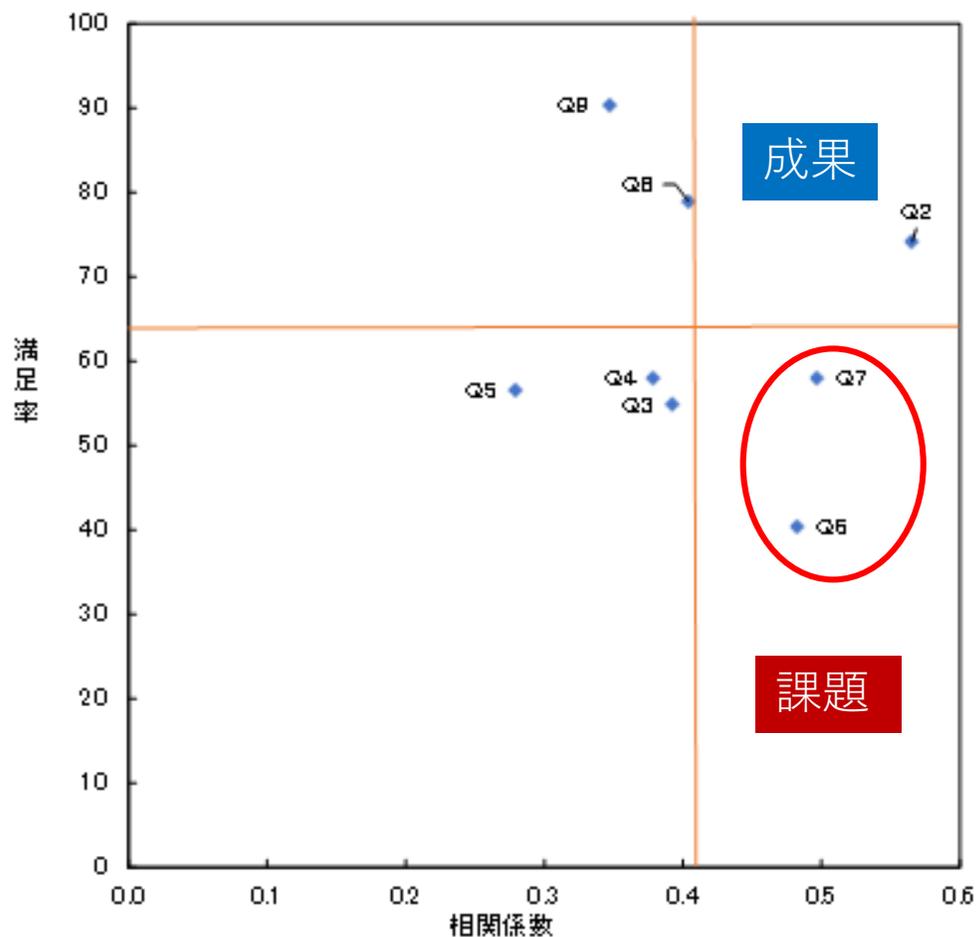
【運営実態と自己評価】 佐々木 (2012) の観点による運営実態調査

運営状況に関する評価	Q 安定的な実践ができているか Q 活動の目的は実現できているか	A 概ねできている A 十分にできている
●人的環境		
①中核スタッフ	必要十分（万全）、8人	
②実働スタッフ	必要十分（万全）、11名（内8名は、中核スタッフを兼ねる。それぞれの立場は、医師、教員、保育士、障害福祉関係者、当事者の保護者）	
③スタッフの連携	必要十分（万全）	
●経営的環境		
①経費	やや不十分（講師謝金、昼食比、交通費、事務費、スタッフの行動費など）	
●実働的環境		
①会場、使用物品	会場は、必要十分（万全）、固定的に使用できる施設がある。 使用物品は、やや不十分、中核スタッフの手持ちを使用。	
②活動内容	やや不十分、事業を県全体に展開したり、スタッフを増員したりするための周知活動が不足。	

【自由記述】 ・活動の持続のための、**運転資金**と、**次世代のスタッフの育成**が課題。
 ・少人数で緩く運営することが持続のコツ、ペアトレノ実施と通常学級の教員への研修に問題意識がある。

3. 結果

(2) 「子育て相談会」における満足度調査（来談者に対する質問紙調査）



- ・「子育て相談会」（3回；2019年9月、11月、2020年2月）の来談者62名から5件法による回答を得た。
- ・CS分析（菅、2015）によって分析した。
- ・満足率は、回答における「5（当てはまる）」が占める割合
- ・相関係数はQ1（目的変数）とQ2~9（説明変数）の相関
- ・散布図から、「満足率と相関係数が共に高い」群を成果とし、「満足率が低い相関係数が高い」群を課題として解釈した。

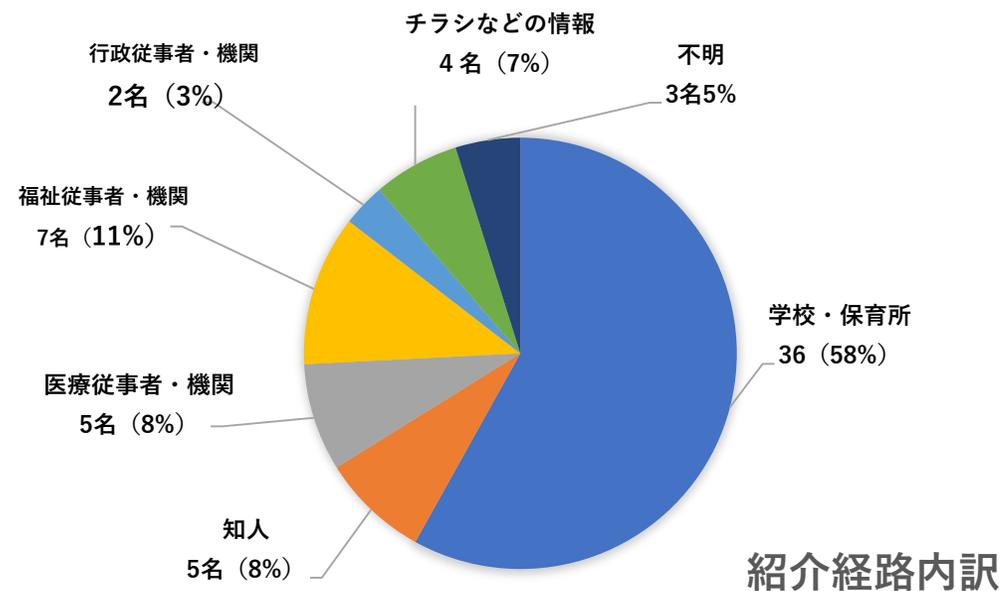
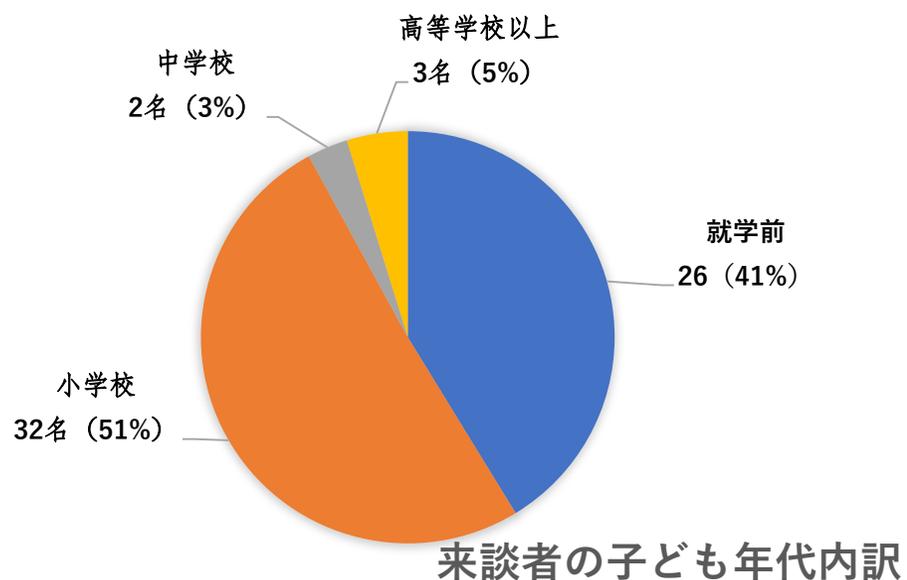
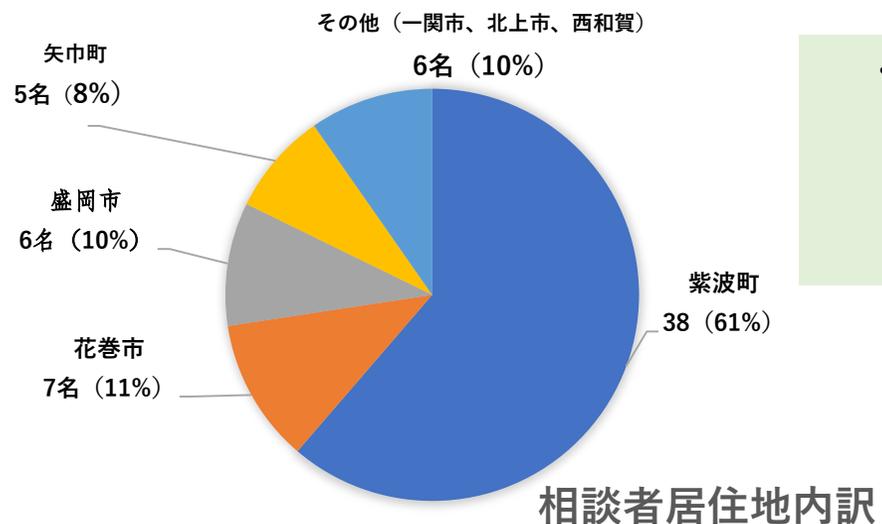
※満足率は総じて高い。この分析は、相対的な解釈である。

質問項目	平均	相関係数	満足率	改善度指数
Q1 「子育て相談会」に参加してよかったと思う。	4.84	1.00	83.87	---
Q2 相談の中で、自分の思いを十分に聞いてもらえたと思う。	4.71	0.57	74.19	2.85
Q3 相談の中で、自分の考えが整理できたと思う。	4.44	0.39	54.84	0.51
Q4 相談の中で、自分がこれからすべきことが明確になったと思う。	4.53	0.38	58.06	-1.05
Q5 相談することによって、子育てに関する不安が和らいだと思う。	4.45	0.28	56.45	-5.51
<u>Q6 相談することによって、子育てに関する方法がわかった。</u>	4.23	0.48	40.32	11.18
<u>Q7 相談することによって、子どもに対する理解が深まった。</u>	4.48	0.50	58.06	5.83
Q8 対応したスタッフの話す内容は的確だったと思う。	4.76	0.40	79.03	-7.48
Q9 対応したスタッフの態度は適切だったと思う。	4.89	0.35	90.32	-15.97

3. 結果

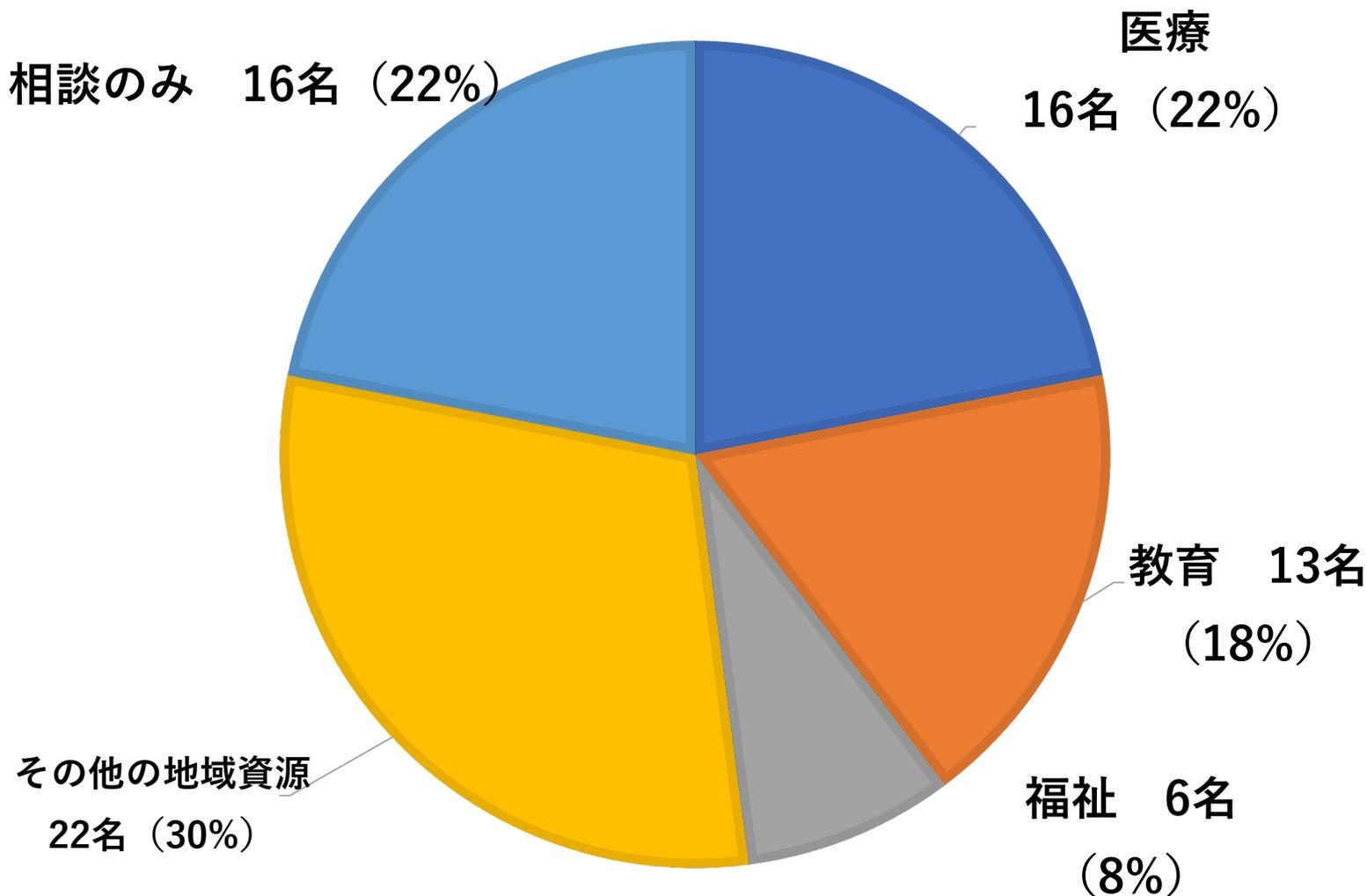
(2) 「子育て相談会」における満足度調査（来談者の居住地等の内訳）

- ・ 来談者63名（このうち、きょうだい1組を含んだため、回答者は62名）
- ・ 居住地の内訳は、紫波町38名（61%）、花巻市7名（11%）など。
- ・ 年代内訳は、小学校が32名（51%）、就学前が26名（41%）など。
- ・ 紹介経路は、学校・保育所が36名（58%）、福祉、医療、知人など。



3. 結果

(3) 「子育て相談会」における満足度調査（来談者への対応）



- ・ 来談者63名に対する対応（支援機関等の紹介）の内訳（延べ73件）
- ・ 「相談のみ」には再来、再来が予定されたものが各1件含まれた。
- ・ 「医療」は、あれんとスタッフ（医師）を擁する病院であり、他は1件のみだった。
- ・ 「教育」は、あれんとスタッフ（小学校教員で、巡回相談員）であり、他は来談者居住地の教育委員会が2件のみだった。
- ・ 「福祉」は、あれんとスタッフ（相談支援専門員）を擁する事業所だった。
- ・ 「その他の地域資源」は、あれんととの事業である「ペアレントトレーニング」が19件、あれんとスタッフが運営する保護者の集いや支援団体、盛岡市の支援活動が各1件だった。
- ・ 紹介先は、あれんとスタッフの本業への紹介がほとんどである。
- ・ 他地域居住者には、当該地域の資源の紹介もある。

3. 結果

(2) 「子育て相談会」における満足度調査（来談者における利用の動機）

【利用の動機（Q13）】 58/62（回答率93.5%）

※記述内容をもって分類したため、データ数と回答者数は必ずしも一致しない。

A 子育てにおける不安

1. 子どものこれからに対する不安

- 例1:息子のこれからについてお話を聞いたかったから
- 例2:子どもが小学校に入学するので
など5件

2. 子どもの発達・適応に対する不安

- 例1:子どもの発育・気持ちなどに不安があったため
- 例2:子どもの行動で気になることがあった
など7件

B 子育ての方法の希求

- 例1:もっと子どものことをわかりたいと思ったし、向き合いたいため
- 例2:子どもにどう対応したらいいかわからないため
- 例3:子育ての悩み軽減
など17件

C 保護者自身の限界

- 例1:自分一人では解決できないと思ったから
- 例2:一人で抱え込みたくなかった。心が限界だった。
- 例3:学校の先生に理解してもらえず、困っていたから
など7件

D 第三者の意見・助言の希求

- 例1:学校以外で相談がしたくて
- 例2:多くの意見を聞いたかった
- 例3:他にどこに相談していいかわからないから
- 例4:専門の人にも話を聞いてみたかった
など9件

E その他

1. 他者からの進言

- 前回参加してよかったと、周りの方からのお話があったから
- 先生にすすめられた
など8件

2. きっかけとなる体験

- 友だちに怪我をさせたため
- 放課後デイサービスを利用していきいたため、医師とのつながりが必要のため
など5件

3. 結果

(2) 「子育て相談会」における満足度調査（来談者自身に必要なこと）

【保護者自身に必要なこと [ニーズ] (Q14)】 58/62 (回答率93.5%)
※記述内容をもって分類したため、データ数と回答者数は必ずしも一致しない。

A 保護者の心理

- 例1:楽しむこと
- 例2:がんばらないこと
- 例3:待つ余裕をもつこと
- 例4:広い視野と情報
- 例5:理解
- 例6:心のゆとり など22件

B 子どもに対する思いとかかわり

- 例1:息子を信じ、粘り強く接すること
- 例2:子どもをほめること
- 例3:子どもを理解する
- 例4:子どもときちんと向き合うこと
- 例5:子の味方になる
- 例6:子どもとの会話 など17件

C 援助要請

- 例1:協力者
- 例2:たくさんの人に触れあって、たくさんのつながりをもつこと
- 例3:相談先
- 例4:子どもに対する周囲の理解が得られること
- 例5:経験者の話 など15件

D その他

- 例1:ゆっくりした時間
- 例2:生活費 など4件

E 未自覚

- 例1:まだ手探り状態で不安なことがいっぱいです
- 例2:わからない など3件

3. 結果

(2) 「子育て相談会」における満足度調査（自由記述）

A 対応への満足

1. 傾聴

親身に聞いてもらえて救われた。 など8件

2. 情報・助言

明確に様々な情報を教えてくださり、とても勉強になりました。 など7件

3. 価値観の獲得

うまくいっている時の方が大事、つながってることが大事だと知りました。 など2件

4. 見通しの獲得

今後どのようにしたらよいか等を教えてもらいよかったです。 など6件

5. その他（感謝など）

今悩んでいることを全部相談することができ、実際に試していきながらやってみようという気持ちになれました。ありがとうございました。 など8件

【自由記述（Q15）】 43/62（回答率53.2%）

※記述内容をもって分類したため、データ数と回答者数は必ずしも一致しない。

B 対応への要望

1. ポジティブな要望 ただし、本事業の趣旨と異なるもの

- ・相談会の日程が増えるといいと思います。
- ・生活面で困っていることを解決していただけたらと思います。 など4件

2. クレーム

- ・バタバタと次々と話が進んで、何の目的で次の予約を取るのか説明がなく、不安に思うことが多かった。
- ・ホームページから探すのが難しかった。 以上2件

4. 考察

(1) 成果

- 紫波町を中心として、保護者の相談ニーズに応え、概ね満足が得られていた。
- 保護者には、傾聴のニーズがあり、これが満たされた。
- 相談対応においては、相談ニーズに応じた専門分野の対応者の選定がなされており、多職種協働の強みが遺憾なく発揮された。
- 相談対応の内容においては、各スタッフの本務への紹介がなされており多職種協働の強みが遺憾なく発揮されていた。

4. 考察

(2) 課題 運営方針と実績の照合による検討

○保護者には、助言のニーズがあり、「子育てに関する方法」や「子どもに対する理解」としては、比して十分に得られてはいなかった。

○保護者は、本事業に対する満足があるだけに、「ポジティブな要望」として、継続の相談、随時の相談を求められていた。

→本事業の運営方針「ニーズに応じたサービスを紹介すること」との齟齬か？
また、相談対応のうち、2割程度が「相談のみ」であり、運営方針との齟齬か？

↓

運営者及び担当者間で確認したところ（2020.3.17.）、「相談のみ」の事例は、「相談の導入として、来談者の傾聴ニーズ（来談者の情緒的支援ニーズ）への対応が最優先された事例」であり、このような来談者ニーズは、常に一定数は想定し得るとのこと（今後、一定数としての2割を検証したい。）。

4. 考察

(3) 課題 持続的な運営を実現するための検討

○他地域居住者への対応や、新たなニーズへの対応を考えると、内部のネットワーク（各スタッフの本務への紹介のみ）では限界がある。

- 運営ポリシーの維持のためには、「予備的なネットワーク」（小山他、2019）が必要。
- ・ 予備的ネットワーク構築の努力として、各スタッフが本務において個々に予備的ネットワークを拡大することがあった。

例えば、

- ・ 「ネットワーク会議」の開催。
- ・ 貧困家庭の児童生徒に対する学習支援を担うNPO法人との情報交換
- ・ 障害のある児者のきょうだいの支援を担う任意団体との情報交換や事業共催 など

○次世代のスタッフの育成が運営上の課題としてあげられた。

- 多職種協働の体制を維持するならば、各スタッフが自らの専門分野における後継者を見出すことが必要か。

5.まとめ

多様な地域性を有する岩手県内各地において、「あれんと」の多職種協働モデルには参照、普及の価値があるだろう。

ただし、運営上、各地域に独自のメンバー構成と地域のニーズに即応する柔軟さが必要であろう。

参考文献

- 管民郎（2015）Excelで学ぶ多変量解析入門、オーム社.
- 佐々木全（2012）発達障害児（者）に対する「本人活動」における運営実態—岩手県内8グループを対象としたアンケート調査から—, はなまき軽度発達障害児の教育と生活を支援する会, 年報花童・風童, 8, 27-41.
- 小山聖佳・上川達也・佐々木全・東信之・池田泰子・鈴木恵太・千葉紅子・菅原亨・照井正孝・高橋縁・名古屋恒彦・坪谷有也・森山貴史・滝田充子・石川えりか・及川藤子(2019)：通常学級における特別支援教育を効果的に実践するための連携スキルに関する探索的研究(10)—連携スキルの概念整理と研修内容の設計方針. 岩手大学教育学部プロジェクト推進支援事業教育実践研究論文集, 岩手大学教育学部プロジェクト推進支援事業教育実践研究論文集, 6, 163-168.